

耶 麻

令和4年度 第1号
[通巻 131号]
耶麻地区小学校長会
令和4年6月22日



巻頭言

私の選んだ校長の出番

耶麻地区小学校長会長 喜多方市立第二小学校 田中 純

学力向上, いじめ見逃し0, 不登校児童生徒支援, 多忙化解消, 不祥事絶無等々山積する課題に対して, 教職員の力を結集してそれを解決していくために取り組む日々。さらにここ数年はコロナ禍で, 子どもたちの健康を守りながら, 教科指導, 学校行事をはじめ日々の教育活動の実施方法を変更することを余儀なくされている。さらに, 少し前までは学校行事などについて今までのようにはやるべきではないというような意見が保護者の中に多かったにもかかわらず, 最近では以前のように実施すべきという意見も多く聞かれるようになり, 苦難の学校経営を強いられているところである。

本年度本校では, 特別支援学級負担軽減補正として非常勤講師が配当され, 大変助かっている。しかし, 昨年度まで復興加配があったため, 担任外として教務主任以外に独立した生徒指導主事を置くことができた。しかし, 本年度は復興加配が吸い上げになったため担任外教員が1名減となってしまった。マンパワーの必要性は様々な場面でズシンと実感させられる。学級担任の出張プラス学級担任の休暇等が重なったとき, 学校の補欠体制が回らなくなることもしばしばである。このような学校の現状の中でも, 前述のような学校課題の解決に向けて進んでいかなければならない。では, いかに進むべきか, と考えたとき「校長の出番はないか。」と考えるようになった。学力向上のためのT, T指導, 習熟度別学習のための1クラス指導, あるいは担任の出張や休暇時の補欠も校長の出番として考えられる。だが一つ, 昨年度赴任してから特に気になっていたこと, 何か手を打たなければならないと思いつけていたことがあった。それは, 前述

の「不登校児童生徒支援」である。対象となる児童は, 令和2年度入学児童。しかし, 1年生時の出席日数は1日のみ。当該児童が2年生になったとき, 学級担任の粘り強い保護者への働きかけにより, 登校させることに保護者の気持ち前向きになり年間20日の登校ができた。しかし, 本人の特性と復帰へのアプローチを合わせることができず, 連続した登校を可能とすることはできなかった。進級し保護者の復帰への前向きな姿勢が感じられた本年4月。入学式翌々日の4月8日, 校長室に登校してきた。昨年度の対応から, 同学年の児童の中では緊張と不安により適応が難しいことがわかってきたため, 基本として「校長室登校」とした。未だ, 一人での登下校ではなく保護者との登下校(徒歩)である。学習内容は, 国語・算数を中心としているが, 3年生であるのでリコーダーも指導している。必要に応じて自然観察に連れて行く。自分で登下校できるように, 自宅までの道のりの交通安全指導も行った。3年生にして初めて運動会にフル出場できた。いつの間にか6月7日現在, 出席日数は29日である。

私の考える「校長の出番」は, 今年度末まで本人の気持ちを学校に向けることに全力を傾けることと, 来年度を見据え「校長室登校から, よりよい別の方法へ」ということに動き始めたことである。

不登校児童生徒支援。本人が自ら登校への意欲を持ち続けられるよう, 「分かった, できた」をより多く味わわせ, 保護者との信頼関係を保ちながら丁寧に, 且つ, 大胆に課題解決を進めていきたいと思う。

～退職校長より～

「現役の校長先生方に送るエール」

前喜多方市立熊倉小学校長 佐藤 明

耶麻地区での新型コロナウイルスの感染状況は、ここにきてようやく落ち着きを見せ始め、各校におかれましては、感染予防に努められながらも、通常の教育活動に戻りつつあることかと、陰ながらお喜び申し上げます。

熊倉小学校在職中は、耶麻地区小学校長会の校長先生方をはじめ、喜多方市教育委員会、関係諸団体の皆様方には一方ならぬご指導やご支援、ご協力を頂き、大過なくとは申せませんが、何とか無事に定年の日を迎えることができました。コロナ禍のため、皆様には十分な御礼やご挨拶もできないままに耶麻地区を離れることになってしまい、誠に心苦しく思っております。

熊倉小学校で過ごした最後の2年間を振り返りますと、令和2年度には感染拡大に伴い新年度が始まってすぐに臨時休業があり、また、その後も緊急事態宣言発出に伴うレベル2の状態が長く続きました。運動会や修学旅行をはじめとする学校行事や、音楽科や体育科などの日々の授業での活動の制限、保護者や地域住民と連携する機会の減少などがありました。こうした困難な状況の中でも、教育改革は否応なく進み、ICT教育推進によるタブレット端末の導入や、コミュニティスクールの設置、新小学校学習指導要領の完全実施による授業改善など、これまでに経験したことのない問題への対応に追われた2年間だったと思います。こうした時に、耶麻地区小学校長会の皆様方に相談に乗って頂いたり、先進的な実践を教示して頂いたりしながら、学校経営に当たることができたことは、本当に有り難いことでした。改めまして心より感謝申し上げます。

さて、私事ですが、昨年度末に定年退職し、この4月からは会津若松市内の大規模小学校で、再任用教諭としてフルタイム勤務をしております。主に2・3学年の書写や図工科の分科担任として、また教務部の学力向上担当として、日々校務に当たっております。校長時代も、年間を通して社会科や体育科の授業を行っていたので慣れていたつもりですが、新たな環境やこれ

までとは異なる立場からの仕事に、戸惑いや難しさを感じながら毎日を過ごしています。

今、教諭の立場から校長職を見た時に、校長の職務の困難さや、その職責の重さに改めて気付かされることがあります。百年に一度とも言われるこのコロナ禍の中で、いかに児童や教職員の命と健康を守り、可能な限り教育活動を正常化させていくか、校長先生方は毎日発生し変化していく問題に対して、正しく情報をとらえ、対応策を考え、毅然として決断していくことが求められています。しかし、その決断には百点満点の答えはなく、保護者や地域住民、また身内である教職員からも苦情や不満、要望等が寄せられることもしばしばあるようです。一教諭の立場なら、自分だけに関する狭い立場からものを言うことができますが、校長の立場は大局的に物事を見る必要があります。時にはあらぬ誤解を招き、誹謗中傷の標的となることもあります。「校長は孤独である。」とよく言われます。もちろん頼りになる教頭先生はいますが、横並びの教職員から一人突出している校長は、学校という組織の中では孤高の存在であるかもしれません。

校長という職責から解放された私から、僭越ながら現役の校長先生方にお伝えできることがあるとすれば、「負けるな。」というエールしか思い浮かびません。新型コロナウイルス感染症が終息するにはまだまだ長い月日がかかりそうです。閉塞的な社会環境の中で育てられた子供たちは、これまでは無かったトラブルを抱えているかもしれません。容赦なく進められる教育改革や、教職員の働き方改革など、すぐに実績を求められる問題も山積しています。

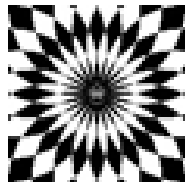
校長先生方には、これらに負けず、どうぞご自愛の上、これからも益々ご活躍下さいますよう、心よりお祈り申し上げます。

退職校長より

「離れてわかること」

前喜多方市立慶徳小学校長

喜多方市立第二小学校教諭 石田秀喜



「ヒデキせんせい！」——

4月以来、子どもたちや先生方からこう呼ばれています。本校職員で「石田」が2名となったためでしょうが、何とも新鮮な響きであり、気恥ずかしくもあります。その一方で、職員室で仕事をしている時、ある先生の「校長先生！」と呼ぶ声に、反射的に返事をしてしまい、周りの先生方の笑いを誘ってしまったことが2回ほどありました。

そんなこんなで、4月から喜多方二小に籍をおき、初任研指導コーディネーターの仕事をしていただいております。喜多方市内6校（第一小、松山小、関柴小、豊川小、塩川小、第二小）を日替わりで訪問し、新採用教員の研修に関わらせていただいております。どの学校においても、校長先生をはじめ、諸先生方には、温かいご配慮と深いご理解、ご協力をいただいております。初任者共々感謝の気持ちでいっぱいです。とにかく、初任者一人一人が、「実践的指導力と使命感、幅広い識見」を身に付け、理想と現実の両方にしなやかに向き合っていける教師になって欲しいと願っています。

校長職を離れて2か月半で大きく変わったことがあります。その一つに、仕事上の電話やメールがほとんど来なくなったことです。特に、あまりいい内容では来ることのない夜間や週末の電話やメールはゼロ。精神衛生上とてもいい状況です。また、仕事上の「判断・決断」の場面はあるにしても、その量も質も重さも、校長職のそれとは比べ物にならないものです。それだけに、今まさに現職にある校長先生方のご苦労を思うとき、敬意と感謝しかありません。

振り返れば、喜多方市教育委員会の4年間を含めれば、耶麻地区、喜多方市勤務が今年で13年目となりました。この間、耶麻地区小学校長会の一員として、多くの校長先生と出会い、たくさんのお話を教えていただいたことはかけがえのない宝となっています。コロナ禍もやや改善傾向を見せているものの、感染予防と学びの保障の両立のための「最適解」を探りながらの学校経営が引き続き求められます。くれぐれもご自愛を。陰ながら応援しています。

転出校長より

これまでにない2年間

前喜多方市立第三小学校長

現永和小学校長 笠原 聡

令和2年4月に第三小学校に赴任してからの2年間、耶麻地区校長会の皆様には大変お世話になりました。

令和2年3月の新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業から、それまで当たり前のように行ってきたことが、当たり前ではなくなりました。

第三小学校での1年目、その年は、第三小学校が開校10周年を迎えた年でした。赴任したときには、記念の年として晴れやかな年にしたと考えていました。しかし、入学式は全校児童出席により行えたものの、それ以降の第一学期の行事は、ほとんど中止や延期でした。PTA総会や授業参観、懇談会も行えず、1学期末懇談会で職員紹介を行うことになりました。運動会や修学旅行も変更せざるを得なくなりました。運動会や学習発表会は、「開校10周年記念」を冠につけ、盛り上げたいと考えていましたが、残念ながら感染対策の制限を加えながらの実施となりました。

この2年間は感染の波を見ながら、感染対策を講じながら諸活動を進めていくこととなりました。その際に助かったのは、校長会などでの情報交換でした。各校の取り組みを参考にさせていただきました。学校の規模や環境などに違いはありましたが、どの学校の校長先生方も、苦しい状況であったと思いますが、前向きに学校運営をされていることは、自分にとってよい刺激となり、がんばろうという思いになりました。

校長会では、それまであった懇親を深める機会はなくなり、会議の席上など改まった場ではなく、多くの先生方と気楽に、そしてじっくりとお話をさせていただく機会がなかったのはとても残念でした。

コロナ禍で迎える年度も3年目となります。会津若松市立永和小学校に勤務している今、学校行事などを行う際には、第三小学校での経験が大変役立っています。本当に貴重な経験だったと思います。

第三小学校での2年間、コロナ禍の中ではありましたが、新たな試みもでき、充実した日々を過ごせました。それもひとえに、耶麻地区の校長先生方や同僚、保護者・地域の皆様、そして市教育委員会の皆様のおかげです。ありがとうございました。

学校経営あれこれ

シンボルの松のように

喜多方市立第三小学校長 河野 公寿

第三小学校の校長室の窓いっぱい、枝ぶりも見事な松の木を見ることができます。私もこれまでいくつかの学校に勤務しましたが、ここまで立派な松は初めてです。樹齢はどのくらいだろうと沿革誌を見てみましたが、昭和30年代に「松」を植樹した記載がありました。しかし、その松が校長室から見える松かどうかは分かりませんでした。ここまで立派な姿になるにはかなりの年月が過ぎていることは想像できます。そして、この松もこれまでたくさんの子ども達が学んで巣立っていく姿を見守ってきたのだらうと思います。まさに本校のシンボルツリーです。松は大昔から日本人に愛され、日本の多くの城にも松が植えられています。お正月には門松を飾り、松竹梅の言葉にもあるように、とても縁起のいい木とされています。1年中、緑の葉を絶やさないその常緑性から、長命長寿の象徴としても親しまれてきました。校長室から毎日眺めるたびに、これまで本校に関わる方々が「松」を大切に育ててきた気持ちを感じます。その思いを、第三小学校で学ぶ子ども達に注いでいけるように、そして本校の教育目標「高き松の子」の育成を目指し、教職員と心をつなげて取り組んでいかなければならないと感じています。

私が令和2年4月に校長としてスタートした時からコロナ禍での学校運営を余儀なくされています。未だにその影響は続いています。松の木は力強い生命力に見守られながら、コロナ禍であっても子ども達が伸び伸びと学び、志高く、知識・技能を身につけ、意識を高くもちながら、松の木に

恥ないように堂々と生きる子ども達を育てていけるよう、私自身も日々努力していきたいと思います。

本校シンボルツリー



学校経営あれこれ

コミュニティ・スクール

喜多方市立姥堂小学校長 齋藤 学

学校経営は、学校教育目標を効果的・効率的に達成するために、校長が核となって組織マネジメント・カリキュラムマネジメントすることですが、人的・物的・予算面等うまくいかないことが多いと感じています。しかし、昨年度より学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールになったことにより、学校経営への理解者・協力者を得られたことは経営上、大きなプラスになりました。

本校では、昨年度から児童の安全安心な登下校について協議を重ねています。委員の方もご自分の地域での役職を活かして、交通安全の幟を増設していただいたり、交通事故防止や防犯の看板を新設して下さったりととても協力的です。本年度からは「ながら見守り」を地区全体で取り組むこととなり、嚮等の準備もしていただくこととなりました。

協議会の熟議の際、防犯協会の方から「イオンタウンがロックタウンと言われていた時に、姥堂地区の防犯協会が防犯カメラを設置したことがあります。地区で要望があれば、防犯用の街灯等の設置も行います。」という話がありました。本校の防犯上の課題である「玄関から出入りする来校者の姿が確認できない。」ということをお伝えすると、「学校への防犯カメラの設置も予算的には可能です。」という話になり、今後、市教委等とも相談して進めていくこととなりました。

このように学校だけでは対応できなかった学校経営上の課題も、地域の方々の協力により解決に向けて進んでいくことができるのもコミュニティ・スクールへの移行があったからだ実感しています。

今後さらに、学校が地域に貢献していくことで、学校と地域のWinWinな関係をより強いものにしていきたいと考えています。

市町村・地区だより

話の小窓

熱塩加納を愛する子に

喜多方市立熱塩小学校長 飯野 淳

高郷小学校長 渡部 寿之

熱塩加納地区には、昭和13年に完成の旧国鉄日中線熱塩駅の駅舎を利用した「日中線記念館」があります。当時の資料が展示された待合室に「心のままの自由帳」という1冊のノートが置かれています。このノートには来館された方の旅の思い出や熱塩加納の自然や人のよさにふれた感想などが綴られています。私はこのノートを読むのがとても好きで、時間を見つけては読みに行きます。ここ数年は、コロナウイルス感染症の影響で思い出が綴られたページはわずかで寂しい限りでした。しかし、今年は「三ノ倉高原の菜の花畑を見に来ました。まさに黄色のじゅうたんでした。」「熱塩加納のアスパラの味が忘れられずまた買いに来ました。農家さんが愛情込めて育てたアスパラは最高です。」「旅館で食べたさゆり米（有機米）がとても美味しかった。」などの書き込みが増えてとても嬉しく思いました。



今年は、3年ぶりに「三ノ倉高原菜の花フェスタ」や「ひめさゆり祭り」が開催され、県内外からたくさんの方が訪れました。地元の皆さんとのコミュニケーションを楽しみながら、新緑の熱塩加納を五感いっぱい味わったことと思います。

熱塩小学校では、郷土愛を育むふるさと学習を推進しています。

夏の三ノ倉高原散策、冬のスノートレッキングなど野趣あふれる熱塩加納の自然を体験する活動、地域の一員としてのふれあいを大切にしたい農業科の推進です。この体験には、ふるさとのよさや自然のおおらかさを感じ取り、ふるさと熱塩加納を大切に思う子どもを育てていきたいという地域の願いも込められています。

私たちが教員として採用された時代は大量採用で、私もその1人として、郡山市の大規模校へ採用となった。同校への新採用は、教諭3名と栄養士1名の合計4名である。今ではなかなか考えられないことである。前年度も2名の新採用があった。職員構成は、20代と30代前半で大半を占め、残りは50代といったアンバランスな組織で、現在ととても似ている状況であった。

この小学校に新採用として赴任して2週間が過ぎたころ、私は休み時間階段を降りていた。すると、1年生の男の子3人がそこで階段の2段跳びをして遊んでいた。私は「けがをすると危ないから、やめなさい。ひとつずつおこなさい。」と優しく指導した。すると、その中の1人の児童が「うわー、この先生、階段の2段跳びができないんだー、だからそんなことを言ってるんだ。」と言った。その言葉に反応してしまった私は、「何言ってるんだ、先生は5段跳びができるぞ」と言ってしまった。私は、助走を少しとり思い切りジャンプ。そして着地のはずだった。

しかし、全く天井の高さまで計算しておらず頭を天井に激突。そして無残にもそのまま落下し転倒した。頭から血が流れ出し、1年生が大騒ぎとなった。

そのまま病院に直行し、数針頭を縫い包帯でぐるぐる巻きとなった。校長先生は温厚であまりしかられることはなかった。しかし、教頭先生には「事故報告をどう書いていいかわからない。」と言われた。今思うと、あんな右も左もわからない自分を、ていねいに指導していただいた先生方に深く感謝している。

今まさに私たちの時代と同じ状況にある。どんどん新採用教員が入り、今度は私たちがこの人たちを指導する立場にある。すばらしい教員になるべく、あせらずしっかり指導していきたい。

話の小窓

雪椿とおとめゆり

西会津小学校長 菅家 由紀子

「おめでとう。」「すごいねー。」と今年の春は、数多くの方に声をかけていただきました。「祝只見高校 春のセンバツ出場！」私が只見出身であることをご存知の方からのお祝いメッセージです。中には、自分のことのように喜んでくださっている方もいらっしゃいました。感謝、感激。

「ところでさー、何であの色なの？珍しいよね。」。「只見グリーン」が気になったようでした。私は、只見高校出身ではありませんが、只見高校のシンボルが「雪椿」ということを知っていたので、選手や応援団のユニフォームに赤と深い緑が使われていることを特に気に留めていませんでした。一見、イタリアの高級ブランドかなと(笑)。

雪椿は、只見のような地域でも、厳しい寒さや降り積もる雪の重みにも負けず、雪解けとともに赤く美しい花を咲かせます。豪雪にも負けない健気でたくましい只見高球児の姿に重なるものがありました。

さて、現在勤務している西会津町の花は、「おとめゆり」です。そして、西会津小学校の校章は、そのお



とめゆりをモチーフにしています。花言葉の一つに「好奇心の芽生え」があります。182名の子どもたちの好奇心をくすぐるような教育活動を展開していきたいと思えます。

そして、今年は・・・

祝 西会津小学校 統合10周年

「チーム西小」のスタッフとともに、地域に根差した西会津ならではの教育を推進して参ります。

<おまけ：校章クイズ>

校章の中央の部分が表しているものは何？

【答え】西会津の「西」の英語表記「W」。五つの点は小学校5校（野沢小、尾野本小、群岡小、新郷小、奥川小）を表し、5校の統合が表現されています。

編集後記

原稿をお寄せ頂いた校長先生方、お忙しい中、本当にありがとうございました。おかげさまで第131号を発行することができました。

新型コロナウイルスの感染症が流行し、今年で3年目を迎えました。感染対策を講じながら、通常の教育活動をおこなうことができるようになりつつある今、様々なことを再開するにあたり、本当に必要なことは何かを、その都度足を止めて考えなおし直しながら学校経営を進めているところです。

地域の実態や学校規模で、すべてを共有できるわけではありませんが、耶麻郡の校長先生方と情報交換を密におこない、未来を見据えた学校を目指したいと常々考えております。

今年度も、3回の会報を発行して参りますので、校長先生方のご協力をお願いいたします。

広報部長 裏磐梯小学校長 佐藤睦弘